

女岩区当日 Q&A

Q：中部電力の原子力発電所のリプレース計画の発表は、あまりにも一方的。共生から逸脱した行為と判断されても仕方ない。こうした計画は今後全国で相次ぐ事。他の手本となってほしい。

A：1・2号機の廃炉は、中部電力の企業判断であるため、認めることとした。

6号機新設は、現在申し入れを受けた段階。タウンミーティングなどで市民の皆さんの意見を聞き、市議会や町内会を中心に地域の意見を集約したうえで、方向性を決めたい。市民の意見を聞かずに了承することはない。

Q：不景気で歳入が減るだろう。廃炉による協力交付金がなくなったときの市財政への影響が心配される。廃炉でも施設は残っている。その施設に対する交付金にしてもいいのではないか。

A：廃炉は、商用炉では浜岡原子力発電所が初めてであり、全国原子力発電所所在市町村協議会でも注目している。御前崎だけでなく、全原協として国に対して、更地になるまでは交付してほしいと要望した。

Q：8月11日の震度6弱の地震では、特に5号機が大きく揺れた。市が先頭に立って市民が安心できるよう中電へ申し入れてほしい。

A：3.4.5号機とも「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」の機能が働き、自動停止した。国や県の説明を聞く中で、その点は評価している。しかし、5号機の地震動だけは488ガルと数値が高かった。中電には、5号機の揺れを検証し、しっかりとした説明を要請してある。

Q：個人住宅の太陽光発電などで電力をまかなえとしても、原子力発電との共生を認めるのか。

A：クリーンエネルギーは原子力だけではない。風力発電は海岸線に建てていく計画。大型太陽光発電を中電と話をしているが、発電施設の敷地が生かせない。中電は土地を無償提供してもらえれば前向きに考えるとのこと。「このエリアを利用してくれ」という声もあるが、山であれば整地に費用がかかる。地球温暖化を防ぐ取り組みとして大切な問題であり、太陽光発電や温水器の補助などを積極的にPRしながら環境に優しいエネルギーを推進していきたい。

Q：他の原発施設周辺も海の磯焼けは出ていないか。海辺の環境変化について徹底した調査報告をしてほしい。

A：磯焼け対策は、漁協の組合長とも協議している。国・県も調査研究している。発電所から出る温排水が原因ではないか、という声もあるが、詳しい調査結果が出ていない。時間をほしい。

Q：市立総合病院を充実してほしい。交付金で財政支援してはどうか。

A：病院は、現在借金がない。榛原病院は168億の借金があるうえ、職員の退職金も必要で、財政が大変な状況。御前崎総合病院は、医療機器も他と比べて優れている。常勤医は少ないが、非常勤で浜松医大から医師が来ている。掛川・袋井病院が統合する時には御前崎にも話があった。2つの病院の借金を背負うことになるため、中核病院ができることに協力はするが、原子力発電所を立地している地域密着型病院として独自に進んでいくこととした。特色ある病院として近隣と連携しながら今後

も医師の確保に努め、充実を図る。

Q：観音坂の拡張工事の予定を教えてください。

A：臨港 1 号道路からヘアピンカーブ付近までの延長 240 ㍍を、幅員 6.5 ㍍で拡幅改良する。平成 23 年度末で完了予定。

Q：地権者へは 3 年に分けて補償していくというが、どうなのか。

A：工事計画に沿って補償していく。計画を変更する場合は、建設課で地権者に説明していく。地元の協力を頼む。

Q：毎年特定検診を 7 月に受けているが、結果が出るのは 10 月、11 月と遅い。要受診など具合の悪い人は手遅れになってしまう。

A：早く結果が出るよう、帰ったらすぐに確認する。

Q：今年も遅い。検査をしたのは 7 月で、まだ結果説明がない。

A：何らかの理由もあるかもしれないが、誠に申し訳ない。

Q：特定検診のスタッフが少なすぎて、いつも待たされる。スタッフをきちんと集めて、手際よくやってほしい。

A：広報おまえざきやケーブルテレビ、新聞でも募集し、採用年齢を上げて保健師を募集している。

Q：観音坂を今見るとヘアピンカーブの上のコンクリート壁の上方に木の根元の土が見えている。大丈夫なのか。

A：御前崎小学校のようにグラウンドに亀裂が生じ、危険な状態なのか確認する。

町内会：壁があるので、たとえ崩れても止まるようになっているから大丈夫。崩れて土が満杯になれば業者に除去してもらっている。

Q：区の委員で回ったときも、地震の防壁工事をしてあったが、水抜き位置が悪いため、裏側に水が溜まりやすい。良い水抜きがあれば。

A：要望を出してもらえれば、直せるところから取り掛かる。

Q：女岩区は戸数も減っているし子どもも減っている。子どもを増やすような子育て支援策を望む。

A：御前崎市の出生率は県下でも上位から 3 番目。しかし市内には産婦人科が無い。新年度予算に子育て支援を組み込む。ファミリーサポートセンター事業や放課後児童クラブなどで子育てを支援している。子どもや高齢者は守らなければいけない。

Q：市長は、昨年全国で住んでみたい町で御前崎市は 3 位だと言っていた。その割には、子どもの数は減っている。もう少し増やす努力をしてほしい。

A：子どもが増えることは誰もが願っている。努力していくが知恵も貸してほしい。